

2008.07.18：経済環境協議会

「平成21年度国の施策及び予算に関する提案について  
「仙台七夕まつりについて」

池田友信委員

後ほど伺いしようかと思ったんですが、今説明された分野に入りますので、ここで質問しますけれども、国の施策及び予算に関する提案の事項の中にありました港湾の対策についてでありますけれども、6月の議会においても付託議案として出された仙台港の保有面積、埋め立てに関する県からの要請に対する議案の中でもちょっとお話ししましたが、国に対してこういう要望を出して仙台港の港湾の国際競争率を強化したいと、こういうことで要請を出している以上は、仙台市の行政の中でじゃあ港湾関係はどうなっておりますかと、あるいはどういうふうに進めるんですかということについて、ちょっと伺いたいと思っておりますが、まず一つ、整理していきたいんですが、仙台市の中での港湾担当業務というのがいろいろ前回の中でも変わってきたこと説明されましたけれども、主にこの内容的に、都市整備局、あるいは企画市民局、経済局とあるんですが、簡単に要約するとどんな形に担当されるんですか。

国際プロモーション課長

港湾関係の事務を所管している具体的な組織についてでございますが、企画市民局がまず港湾管理に関することについて所管してございます。都市整備局が都市計画や仙台港の背後地について、建設局が港湾に関する道路の結節、そして、経済局が港湾の利用促進に関することについてそれぞれを所管しているところでございます。

港湾部局の推移、変遷につきましては、さまざまな部署が担当したということもございますが、平成8年からは企画局空港港湾対策室で港湾関係の事務を所管しておりましたが、平成16年からは、ただいま申し上げたような分担で現在に至っているところでございます。

池田友信委員

これからの経済局が今回の中でも国に要望を出す窓口というか、あるいは主管という形になると思うんですが、大変経済局が中心になっていくような、そういう位置づけをされていると思うんですけれども、例えば今までの中では、港湾対策室という形で、企画局ですか、当時の企画局が一応港湾関係の窓口で、港湾関係のそういう部分の仙台市の行政の一つの役割として対応してきたんで

すが、その分野については、やっぱり経済局なんですか、それとも管理関係でいくというと、先ほど言いました企画市民局なんですか。

#### 国際プロモーション課長

企画局に当時あった空港港湾対策室についてでございますが、こちらは、当時特定重要港湾の昇格とかにかかわってきまして、そういう事務を当然取り扱っていたということで、そういう組織があったと。プラス今現在、経済局で行っています利用促進に関すること、あと、先ほどもちょっと説明しましたけれども、企画市民局で所管している港湾の管理権に関すること。あと都市整備局で所管している部分もございます。そういう割り振りの中で、ずっと今までは一つの室で担当していたのを分担して担当しているというところでございます。特に経済局につきましては、利用促進に関することに重点を置いて取り組んでいるところでございます。

もう一方、窓口につきましては、何本も窓口というわけにはいきませんので、基本的に経済局が窓口となっているところでございます。

#### 池田友信委員

今話したんですが、以前、港を持っている仙台市として、他都市でやっています港祭りとか、あるいは海の記念日とかそういう行事を自治体がやって、それで港湾関係の住民を含めて行政側が市民に港を大いに利用しましょうとか、あるいは活用しましょうとか、あるいは昇格するための努力をしましょうというアピールをしたりして、市長が行って、当時は島野市長のときでしたけれども、提案して、私も港に入ってきた船にそれぞれ船長さんに、御利用いただきましてありがとうございますと。おかげさまで特別とん譲与税が約年間で1億入っておりますと。ぜひひとつ仙台港もこれからも利用してくださいと。こういう活動もやっていたんですね。ほかのところはやっているんです。横浜なんかを見れば、全然雲泥の差の港なんですが、やっぱり国際港としての行政側としての取り組みとしては、これからやっぱりその辺の行政の動きというか対応が、やはり進めないといけないと思うんですが、現状を見ますと、そういうものも何かなくなってきたように、私は見ているんですけども、そういう動きは現在、どこが中心になって受け継いでいるんですか。

#### 国際プロモーション課長

港関係のお祭り等を含めた所管についてでございますが、これは現在、経済局が所管してございます。先ほど言った市長が当時の島野市長が出席したという件につきましては、現在市長は出席しておりませんが、港祭りは現在も

やっております、事務方が主に行って、お祭りのお手伝いをするということをやっております。そのほかに、例えば豪華客船のセブンマリナーズとか、飛鳥が来た際については、宮城県、そして仙台市、商工会議所も含めた促進協議会におきまして、歓迎行事を行ったり、場合によってははずめ踊りを披露したり、今回飛鳥IIにつきましては、仙台市の観光を促進するために、経済局の職員が乗り込みまして、実際に仙台市のプロモーションをするというふうなことなんかも行っているところでございます。

#### 池田友信委員

この間も南極船の最終寄港されて、そのときも行ったんですけれども、あそここのところが非常に暗くて、以前は暴走族のテストコースみたいな、そんな形であったわけなんですけれども、そういう安全対策のことも考えていくと、あの辺の地域の環境整備というか、そういうものは国に、この中にも安全・安心を支える港づくりというふうに国に要望している以上、背後地関係については、県が中心になってやらなければならないと思うんですが、利用はやっぱり仙台市が積極的に県の方に出してやらないといけないと思うんで、そういうことも含めた活動の窓口ということも、これから経済局になると思うんですけれども、きょうは余りそれに対して掘り下げませんが、こういう国に対する要望を出している以上は、やはりもっとそういう部分で管轄であります県だけでなく、やっぱり行政区域内は仙台市ですから、その辺に対する取り組みも積極的に考えて対応していくことが必要じゃないかと。全く、あそこは真っ暗ですからね。

この件についてはその程度でとどめますが、今回国に要望を出している以上は、それなりの対応をやっぱり地元として県と市と、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいというふうに、これは一つの要望であります、お話ししまして終わりたいと思います。